

14-3 カムイユカラ「オキクルミ ヘペレ (ノオ)」解説

語り手：鍋澤ねぷき
聞き手・解説：萱野茂

萱野：えっと、あの一、私は一匹の小熊でありました。オキクルミカムイの所で養われておった。

鍋澤：XXX humi hawas XXX

萱野：えー、ある日のこと、私の育ての親であるオキクルミカムイが言うことにはもうお前も一人前の、一人前の熊になったので神への国へお帰り願うと、けれども子供、まあ一人前というよりも、まだ、もう神の国へ帰してもいいぐらいの大きさになったけれども、まだ子供であるが故にイナウとかそうしたものを持たすわけにいかないと、だからほかの物を持たしてやるから神の国へお帰りなさいと、この川をずっと上って、**koyka wa kus pet** [東側を通る川] というのは上って行って、その、東側だな？
koyka wa...

鍋澤：んだんだ

萱野：東側の方を流れている川を上っていくと一つの **poru** [洞窟] っちゅうのは、ま、洞窟があると、そこへ行くと、んー神様がたくさんお前を待っておるから、そこへいきなさいと言われたので神の国へ、まあ帰って行くと、言われるままに帰って行って、言われた道そのままにその川を上っていくと、たくさんの神様が集まって何か、まあ飲んでるか、相談しておる。そこへいったと、そして家へもう急に入らずに2~3回戸を通り越してから入るようにと言われたので、それを戸を、入口を通り越し、通り越しながら、まあ入った。そしたら、そうして自分の言われたことを父神、母神に言うと、んー、父親が **apekes** [火の燃え尻] 取ったんだったか？

鍋澤：**apepasuy** [火箸]

萱野：**apepasuy?**

鍋澤：うんうん。

萱野：父親が火箸を取りあげて私を殴り、母親は……

鍋澤：apekes。火の……

萱野：火の燃え尻を取って私を殴りつけた。

よくよく見たら、よくよく自分自身の身体を見たら、私は普通の熊ではなくって、アイヌを呪おうとして変なその、まあ普通でない身体つき、すべての格好が変な熊であったと。

それでオキクルミカムイに、そういうふうに言われて神の国へ帰ってきたのであったことが良く分かったという、その小熊の話ですね。

kamuyyukar〔神謡〕でした。